

郊外戸建住宅地における地域住民と大学生による高齢者の居場所の形成 — 伊勢原市愛甲原住宅での活動初期の試みから —

大橋 寿美子^a 加藤 仁美^b

^a 湘北短期大学生活プロデュース学科 ^b 東海大学建築学科

【抄録】

少子高齢社会では、家族を超えた人と人とがつながるしくみづくりが必要である。本報告では、郊外住宅地での高齢者の居場所づくりの実践活動初期の様子を中心に報告する。伊勢原市愛甲原住宅は、高度成長期に開発された国家公務員のための住宅地である。高齢化が進む中、地域住民が主体的にデイサービスセンターや小規模多機能居宅介護施設を開設するなど、地域の高齢者の暮らしを支えてきた。その地域住民によるNPO「一期一会」と東海大学および湘北短期大学の学生が、高齢者や地域の人が気軽に立ち寄れる居場所づくりの活動を平成25年度から開始した。1年間で6回のイベントを実施するなど、少しずつ活動を広げている。

【キーワード】

サードプレイス 居場所 高齢者 郊外住宅地

1. はじめに・背景

家族機能が弱体化した少子高齢社会では、家族や一住宅一住戸を超えて、人と人とがつながるしくみづくりが必要である。子どもや高齢者はもちろん、誰もが日常の役割や利害関係から解放され、気軽に誰かと会話をしたり、交流を楽しむことができる住宅や職場以外の場所として、もうひとつの居場所(以下、サードプレイス)が着目されている。

現在、人が集まる交流の場として公共の施設では、公民館やコミュニティセンターなどがあるが、現状では数・質・規模的に多様なニーズに対応することは難しい。近年では、空き店舗などの既存

開放、コミュニティカフェなど、NPO法人や任意団体および個人が設立し運営する、居住地域での交流の場づくりが各地にみられるようになってきた。公共の施設とは異なり小規模で、資金的にも厳しく、素朴な空間ではあるが、設立者や運営者個々の工夫により、親しみやすい居場所が形成されている^{注1)}。

本研究では、既に各地にみられるサードプレイスの事例の運営や空間利用の実態把握^{注2)}と合わせて、居住地域のコミュニティ再生の一端を担う、サードプレイスづくりの実践を通して、運用方法、利用者の生活の質の変化、空間と利用との関係などを検証することを目的とする。様々な年代や背景の人とゆるやかにつながり、人々が心の平穏を保ち前向きで活気のある地域社会づくりの一助になるサードプレイスの条件を探ることを最終的な

<連絡先>

大橋 寿美子 ohashi@shohoku.ac.jp

ねらいとする。

高度成長期に建設された郊外住宅団地の伊勢原市愛甲原住宅では、高齢化（高齢化率約33%、単身と夫婦のみ合計約50%）により住宅内に閉じられた人間関係をつなぎ直し、住みなれた街で最後までくらし続けることができるしくみの一つとしてのサードプレイスの形成を目的とした活動が生まれつつある。本稿では、その実践事例の発足初期の活動について報告する。

2. 伊勢原市愛甲原住宅の概要と課題

愛甲原団地は、昭和41年に伊勢原市高森台（約600戸）と厚木市愛甲（約250戸）の2市にまたがり、国家公務員共済組合連合会による宅地造成事業により開発分譲された約28.5haの戸建住宅地である。東名高速道路の北側に位置し、周辺は市街化調整区域の小高い丘にあたり、愛甲原ショッピングセンターとバス停のあるロータリーが、住宅地の中心となっている（図1. 2. 3 表1）。

高齢化が進む中、昭和62年に地域の有志数名が買い物や通院のための車の運転等の家事援助サービス（伊勢原ホームサービス）をはじめたのを契機に、福祉のまちづくりへの展開がスタートし、平成10年には、高森台福祉のまちづくり勉強会が、自治会長、民生委員等の地域住民と大学関係者により発足する。

同時期に、中心部のショッピングセンターの店舗やスーパーの撤退が始まったため、買いましょ運動等でスーパーの転出は防いだものの、店舗の退去はやまず、高齢者世帯の危機感が強まった。

そして、空き店舗を活用し、地域住民により、平成15年にデイサービスセンター「デイ愛甲原」が開設される。また、宿泊サービスを求める要望を受け、平成18年には小規模多機能居宅介護施設「風の丘」を創設した（図4. 5）。施設の敷地は、地

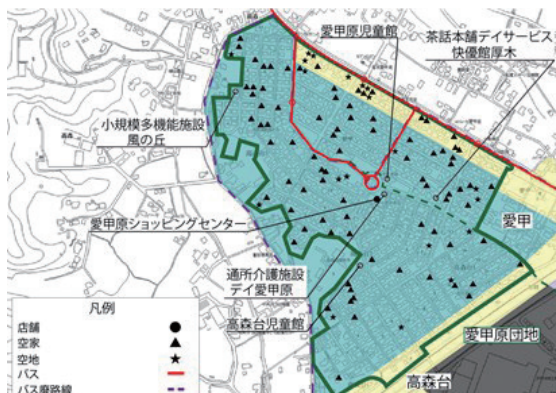


図1 愛甲原団地現況

表1 愛甲原団地の概要

団地名	愛甲原団地	
分譲開始年次 (着工、完成年)	分譲開始 昭和41年 (着工 昭和39年)完成 昭和41年)	
事業主体	国家公務員共済組合連合会	
団地総面積	185,460㎡	99,100㎡
宅地分譲面積	122,400㎡	69,400㎡
区画数	612	276
平均宅地面積	200㎡	251㎡
用途地域(開発時) (現在)	(一住専、 一低専、一住)	(一住専、住居) (一低専、一住)
所在地	伊勢原市高森台 一丁目、二丁目、三丁目地内	厚木市愛甲地内
自治会	高森台自治会	愛甲原自治会
世帯数(世帯)	606(住宅地図による)	226(自治体加入世帯)
人口 (高齢人口) (高齢化率)	1608人 526人 32.7%	- - -
集会所	高森台児童館	愛甲原児童館
公園	横手原公園(一丁目)四角山公園(二丁目) 笠張公園(二丁目)鳴瀬公園(三丁目)	愛甲原しま公園 愛甲原たかみ公園 児童公園
商業施設	愛甲原ショッピングセンター	
福祉施設	デイ愛甲原(デイサービスセンター) 風の丘(小規模多機能居宅介護施設)	快優館厚木(茶話本舗デイサービス)
バス交通(バス停)	3系統 (愛甲原住宅、大上、愛甲郵便局前、上愛甲)	



図2 愛甲原住宅バスロータリー

域住民から提供を受け、戸建住宅を建て替えて建設された施設の1階はデイサービスや配食サービス等の小規模多機能サービス、2階は6戸のケア付きハウスとなり、土地を提供した当人も入居した。両施設とも、建設資金や運営費を地域住民か



図3 愛甲原住宅街並み



図4 「風の丘」外観

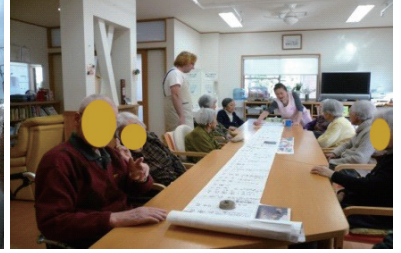


図5 「風の丘」内部の様子

ら募って運用し、福祉の勉強会から生まれた地域住民によるNPO法人一期一会により、運営されている。

現地調査では、空地は20敷地（2.4%）、空家は84戸（10.1%）、と、比較的多くみられ、居住者へのヒアリング調査結果では、空地空家の所有者からの依頼で、近隣の居住者が日常の草取りや風通し等の管理を行っている例が多くみられた。また、

近所の高齢者の生活サポートを相互に行っていることが確認された（図6.7.8）^{注3)}。

その他、平成14年には、愛甲石田駅や伊勢原駅、厚木バスセンターを帰着点としたバス系統が4本廃止され、地域の課題となっている。高齢者を対象とした暮らしに関するアンケート調査（表2）では、「日常生活で困ること」への回答から、当該地が抱えている課題が明らかとなっている^{注3)}。

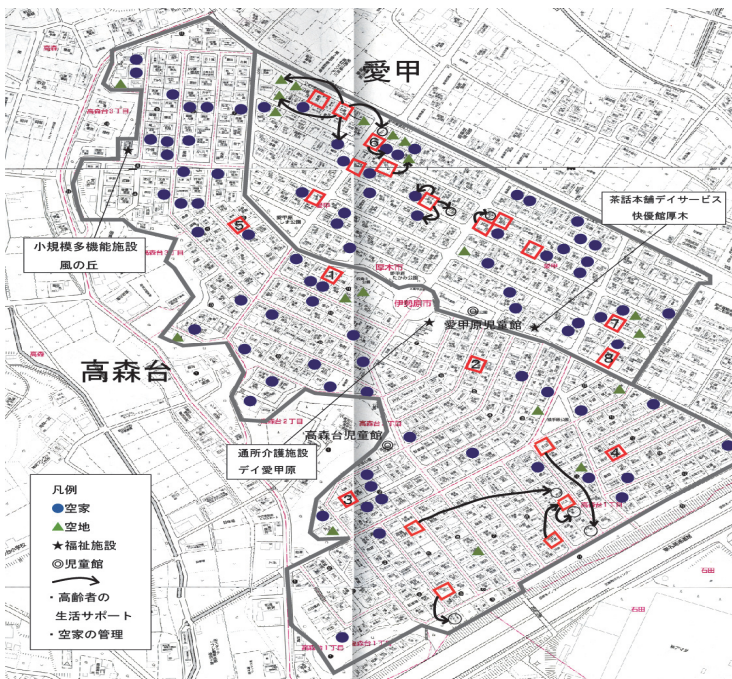


図6 愛甲原団地の空家・空地・生活サポート実態



図7 空家1



図8 空家2

3. CoCo てらすの概要と CoCo てらし隊の活動

NPO 一期一会によって、2012年にコミュニティスペース CoCo てらす (以下、CoCo てらす) が「デイ愛甲原」の隣に開所された。

(1) CoCo てらすの目標

「老若男女どなたでも、世代をつなぎ、地域をつなぎます」と掲げて、だれでも気軽に利用でき、世代を超えた地域の居住者のつながりづくりと地域の精神的にも核となる場所を目指す。表2で示された地域が抱える課題の一部の解決を意図している。また、戦後の日本を創造した知識と文化の継承も目的の一つである。

表2 地域住民の属性と暮らしの実態調査結果

		平成10年	平成23年
世帯主の年齢	40歳未満	12 (4.7)	4 (2.8)
	40代	13 (5.1)	9 (6.3)
	50代	21 (8.2)	11 (7.6)
	60代	72 (28.3)	29 (20.1)
	70代	89 (34.9)	52 (36.1)
	80歳以上	46 (18.0)	40 (27.8)
	困った時の相談相手	家族・親族	136 (53.3)
友人・知人		9 (2.0)	37 (25.7)
近所の人		5 (2.0)	7 (4.9)
市役所・支所		29 (11.4)	3 (2.1)
病院の医師や看護婦		54 (21.2)	13 (9.0)
自治会の役員・民生委員		2 (0.8)	4 (2.8)
ケアマネージャー			12 (8.3)
地域包括支援センター			1 (0.7)
ホームヘルパー(訪問)			2 (1.4)
相談する相手はいない		6 (2.4)	
日常生活で困ること	その他	6 (2.4)	5 (3.5)
	高齢化が進み若者が少なく街に活気がない	85 (33.3)	39 (27.1)
	団地内の店舗が少なく商店街遠く買物不便	77 (30.2)	41 (28.5)
	バスの運行回数や運行ルートが不便である	78 (30.6)	35 (24.3)
	団地内を通過する自動車が多く、危険である	104 (40.8)	22 (15.3)
	空家が自立ち管理面や防犯面で不安がある	46 (18.0)	45 (31.3)
	地域住民が集まり話合う場所や施設がない	77 (30.2)	7 (4.9)
	急病など病気になった時の不安が大きいの	61 (23.9)	23 (16.0)
	隣近所の付き合いがうまくいっていない	9 (3.5)	3 (2.1)
	健康や福祉に関する情報が伝わってこない	33 (12.9)	5 (3.5)
	その他	19 (7.5)	5 (3.5)



図9 CoCo てらす外観

(2) 運営

現在は一期一会のメンバーが運営している。平日と土曜日の午後の2時間 (利用料500円)、足湯や健康麻雀教室、アート教室などが行われている。本格的に地域の人の居場所化を目指し、若い人との交流により街の活性化を図るために、新たに筆者らの大学生と連携してイベントを実施し、地域の高齢者と大学生との触れあいの場面を作る。今年度のテーマは食と健康で、「育て作る」を地域の高齢者と共に行い、創作や成長と味覚の体験を共にしながら、交流を図っていく。

(3) CoCo てらし隊 (学生サポート隊) の活動

発足して1年、ほぼ2カ月に1回イベントを実施



図10 学生と一期一会との運営会議

している。イベントのための準備は、頻繁に打ち合わせを重ねて当日を迎える (図10)。企画はNPO 理事と施設長、学生と教員とが共に考え、アイデアを出す。実際の活動はてらし隊が中心で行っている。表3に

その活動内容を整理した。



表3 CoCoてらし隊活動内容

図11 CoCoてらし隊ロゴ

時期	活動内容	広報
H24 12 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	・活動目的・運営方針決定 ・一期一会と東海大・湘北短大との連携合意	
	・予算確認 ・年間活動テーマ「食と健康」・イベント決定 ・学生活動メンバー決定	
	・イベント配布ちらし作成 ・第1回イベント準備 ・会計システム決定 ・「CoCoてらし隊」ロゴマーク学生コンペ実施・決定 ・学生活動チームネーミング「CoCoてらし隊」決定	ちらしポストへ投函 一期一会会報告知
	・第1回イベント(お花見・お茶会・顔見世)実施 ・ロゴマークグッズ作成(エプロン・スタンプ・募金箱) ・第2回イベント準備 地域農家訪問	ケーブルテレビ放映 地域新聞掲載
	・第2回イベント(ミニトマトを一緒に育てよう)実施 ・てらす前に野菜を植え、育てる ・CoCoてらし隊に参加者宅への成長記録訪問調査	ちらし・ 会報紙告知
	・参加者宅へトマト見回り ・成長記録をとりながら交流する	
	・第3回イベント(ミニトマト品評会)実施 ・ロータリー利用状況調査	ちらし・ 会報紙告知
	・第4回イベント(パーベキュー大会)実施	ちらし・ 会報紙告知
	・壁面アート実施家検討 →アート作家との協働決定 実施見送り 課題・活動資金	
	・第5回イベント(愛甲原祭り参加 お試し コミュニティカフェ)	ちらし・ 会報紙告知 ポスター貼
	・第6回イベント(クリスマス会-風の丘 ・ディ愛甲原・CoCoてらすにて ハンドベル講演 / コミュニティカフェ)実施	ちらし・ 会報紙告知 ポスター貼 招待状送付

(4) 活動内容

① 第1回イベント

CoCoてらし隊デビュー

— 春のおもてなし — H25. 4

CoCoてらし隊(以下、てらし隊)の活動開始を地域住民の皆さまに認知していただくために、自治会長や地域の活動をされている方を招いて、学生の手作りの桜餅とお抹茶でお披露目会を行った。桜餅の作り方はディ愛甲原のスタッフに、お抹茶の点て方は関係者で地域に住む高齢者に教えていただきながら、お一人おひとりに振舞った(図12. 13. 14)。顔を覚えていただくよう、学生と参加者全員の自己紹介などが行われ、「街が活性化していくことに寄与して欲しい」などてらし隊の活動への期待が聞かれた(図15)。参加者は地域住民12名、学生と教員19名、NPO一期一会の理事長や「風の丘」の施設長である。またこの日の参加者から学生手作りの募金箱に活動のための寄付金をいただくことができた(図17)。活動の事前告知は、学生が作成したちらしをNPO一期一会の会報誌に掲載した(図16)。またイベント当日のてらし隊デビューの様子は、厚木市ケーブルテレビや厚木タウンニュースで活動が紹介された(図18)。



図12 お抹茶の点て方を教わる



図13 手作り桜餅



図14 桜餅とお抹茶



図15 参加者からのお話

学生が地域交流

高齢者たちとお茶会

湘北短期大学学生クラブ
ユニテイスと東海大学建築
学科の学生有志が、地場産
ランディ団体CoCo
をこのほど編成
し、4月20日に初めてのイ
ベント開催と茶会
を開催した。高
齢者の名称は活動拠点の特
長を踏まえ、ミニトマトを
育てよう、H25.5

定例高層活動法人(一期)会 女を問わぬ地域交流べ
(川上通子理事長・伊勢原
市高森登)が運営するミ
ニテイス(ユニテイス)C
oCoさん(地域をつなげる活
動)から取った。当
日はボランティアの学生16
人を中心に手作り桜餅を
準備し、厚木市や伊勢原市
の地域で暮らす高齢者を
招いてお茶会開催。世
代を超えて交流を深めた。
今後は同べいを拠点
に、ミニトマトや夏
野菜の栽培や夏
祭りの準備など、

図18 タウンニュース掲載記事



図17 募金箱

② 第2回イベント

ミニトマトを育てよう H25.5

活動を始めたばかりのてらし隊の課題は、多くの地域住民の皆さまに顔を覚えてもらい、親しくお付き合いをさせていただくことである。自然に親しくなり、てらし隊の活動が高齢者の日常の暮らしの中に組み込まれ、高齢者の生きるはりあいやより元気になっていただけることを目標に掲げて、活動内容を検討した。その結果、近隣のトマト農家の協力を得て、ミニトマトを参加者の各住宅で育てていただきながら、定期的にてらし隊がミニトマトの世話や成長記録を取りに訪問する。つまり、トマトの育成を媒介とした「訪問型のコ

春のおもてなし

CoCoてらし隊デビュー!

4月20日(土)
13:00~ 桜餅づくり
15:00~ お花見、お茶会
16:30 おわり

場所
コミュニティスペース
CoCoてらし

CoCoてらし隊と一緒に桜餅を作ったり、お抹茶を点てたりしませんか? ぜひ、綺麗な花を見ながらお話ししよう! お花見だけでも、お茶会だけでも、私達CoCoてらし隊の顔を見に来るだけでもOK!

募集!

抹茶の点て方、桜餅の作り方を教えて下さる方を大募集しています!
参加する方は、エプロンを持参して、4月20日の13:00に、CoCoてらし隊に集まって下さい! よろしくおねがいします!

CoCoてらし隊とは?
CoCoてらし隊を拠点として、2大学(湘北短期大学・東海大学)の学生や、地域ボランティアとして集まったスタッフのごこと!
愛甲原住宅の皆さんの暮らしのお手伝いをします!

CoCoてらし隊のロゴマーク

前の形をCの形にしてみんなの手を繋いで、1つになるとイメージに仕上げました! (加藤)

他にも色々なロゴの案が出たんです! 皆さん色々考えました!

パッと見ても分かるようにシンプルに! (前川)
双葉のようにドンドン大きく成長したい! (青木)
CoCoに居場所があるということを表現! (高野)
CoCoの後ろを私達ひよっこがついていきます (原田)

CoCoてらし隊のメンバー写真

図16 CoCoてらし隊デビューお知らせらし

「コミュニティ形成」を目指すことにした。

事前にちらしによりミニトマト育成プロジェクトへの参加を呼び掛けた結果、参加者は25名、イベント当日の参加者は11名であった(図19)。イベント当日は育て方講座(図21)、苗の仕分け後(図22)、参加者宅へてらし隊がご自宅へ配送した(図23、24)。また、地域住民の協力ですす前の植栽スペースを畑にし、ミニトマトや茄子、ピーマンなどのミニ菜園にし、栽培することにした。その後、ほぼ10日1回、トマト生育状況の確認のための訪問を行い、フェイスシートにトマトの成長記録と高齢者の様子や会話を記録した(図20)。

CoCoてらし隊活動!!

トマトと一緒に育てませんか?

20組限定!!

5月4日(土) 9時半~ CoCoてらし隊主催!

CoCoてらし隊と一緒にミニトマトを育ててみませんか?
CoCoてらし隊メンバーも定期的に見回りし、皆様と一緒に栽培していきます。楽しくてワクワクの美味しいミニトマト...
買って食べるのも美味しいけど、自分で愛情込めて育てたトマトは10倍美味しい!!
実際に農園を営んでいる青木さんにもサポートしていただけます☆
少しでも興味のある方、美味しいミニトマトが食べたい方、是非お声かけください!
8月にミニトマトコンテストもやります。
募集期間 現在は募集終了となります。
A. 苗のみの方...100円
(プランターは別売も可)
B. プランター一体の組合...800円
(送料、保険込)

申し込み書あり

CoCoてらし隊では、CoCoてらし隊を拠点として、2大学(湘北短期大学・東海大学)の学生や、地域ボランティアとして活躍するスタッフが愛甲原住宅の皆さんの暮らしに「暮らし」を応援します!
連絡先 : 【コミュニティスペース CoCoてらし】
住所 : 伊勢原市高森登3-11 (伊勢原駅南側)
申し込み先 : 0468-97-0016 (熊の記)

図19 ミニトマト参加者応募ちらし

フェイスシート
Cocoでらし隊 野菜企画

作成日	年 月 日	作成者	姓 名	男 - 女
フリガナ		生年月日	年 月 日	
氏名	種	年齢		
住所	〒	電話番号		
同居家族について	同居家族の有無	有 - 無		
	氏名	性別	続柄	年齢
		男 - 女		
		男 - 女		
		男 - 女		
訪問希望曜日	月・火・水・木・金・土・日			
訪問希望時間	① 09:00 ~ 09:30	② 10:00 ~ 10:30		
	③ 11:00 ~ 11:30	④ 14:00 ~ 14:30		
	⑤ 15:00 ~ 15:30	⑥ 18:00 ~ 18:30		
本人写真		署名		
家写真		地図		

図 20 記録用フェイスシート



図 21 ミニトマト育て方講座



図 22 苗の仕分け



図 23 参加者宅の配送 1

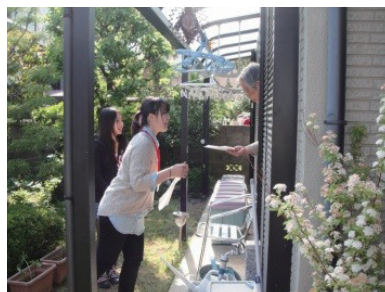


図 24 参加者宅の配送 2

③ 第3回イベント

ミニトマト品評価会 H25. 7

ミニトマトの栽培を始めて2カ月が経過し、収穫の時期となった。参加者が自宅で収穫したトマトをてらし隊が集めてまわり、参加者とトマト農家の方による、味やサイズの品評価会を行った。地図の上に、収穫したミニトマトを置き、糖度計による糖度比べ、サイズ比べ、育て方などを報告し合った。育てた場所の環境や栽培方法の違いなどが味やサイズにどのように影響しているのか、食べながら確認し、参加者は農家の方からの評価や育成方法へのアドバイスに熱心に耳を傾けていた(図25)。参加者それぞれのトマトの特徴を表した表彰状を渡し、このプロジェクトに参加した感想をお聞きした(図26)。「とまとの成長は毎日の生活のはりになったが、それ以上にてらし隊の訪問がとても楽しみだった。最近は子どもも孫もなかなか訪問してくれないので、久しぶりの若



図 25 住宅地図にトマトを配置する



図 26 表彰状を渡す

い人との会話でわくわくした。来年もぜひ参加したい。」自宅に上がってお茶を頂くなど、参加者と担当のてらし隊との距離は縮まったようだ(図26、27)。



図27 参加者との集合写真

④ 第4回イベント

夏祭りーバーベキュー大会 H25.8

夏のイベントとして、てらす前のスペースを活用したバーベキュー大会を行った(図29、30)。てらすのミニ菜園で収穫した野菜や、地域の人が焼きたいものを持ち寄りバーベキューを行う企画である。ミニトマトづくりに参加してくださった方には、担当者から招待状を配布した(図28)。当日は14名の参加がみられ、毎回参加の方が出来るなど、顔なじみが出来た(図31)。また地域の子どもが参加するなど、新しい参加者も若干だが増えた(図32)。今回はてらし隊の認知を広げるべく、室内でなくててらす前で活動を試みた。買い物の帰りの通りすがり人が「楽しそうね」と覗くが、中に入って行かない人もみられた。「何か学生とやっていて楽しそう」という印象を持ってもらえたようだ。

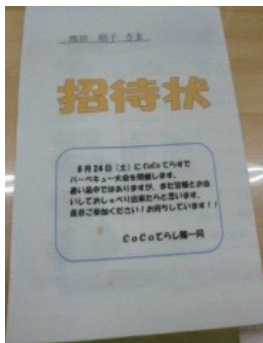


図28 招待状



図30 植え込みで



図29 てらす前でバーベキュー



図31 高齢者は室内で食事



図32 子どもからの感謝状

⑤ 第5回イベント

愛甲原住宅秋祭り

— お試しCoCoカフェ H25. 11

イベントへの常連の参加者が出来てきたが、さらに多くの方の利用や、イベント時だけではなく日常的な居場所化を目指して、コミュニティカフェを実験的に試みた。

地域の郵便局主催の愛甲原住宅祭りへ参加し、てらすで「カフェ」を行った。コーヒーや紅茶、理事長さん手作りカレー、学生手作りケーキなどを提供した。お祭りはくじ引きや歌やバンドの演奏

などがあり、出演者の控室や休憩所としても活用された(図33. 34)。てらすの内外装をカフェの雰囲気にして机配置や看板、ポスターメニューづくりなどを行った。利用者は16名、祭りやNPOスタッフの利用が15名あった(図35. 36)。

手作りケーキは評判が良く全て完売し、今後の定期的なカフェへの手ごたえを得ることができた。初めての参加者から「買い物の途中で休憩する場所やお茶を飲むところが欲しいと思っていたので、定期的には是非やって欲しい。ここは高齢者だけ利用する場所かと思っていたので、だれでも



図 33 愛甲原まつりご挨拶



図 34 コーラス隊



図 35 おためしカフェ 1

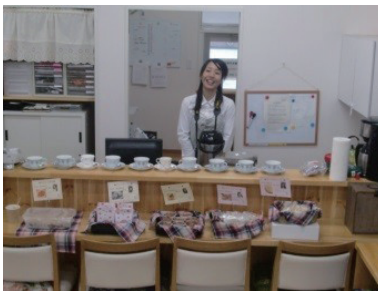


図 36 おためしカフェ 2



図 37 てらす前でハンドベル演奏



図 38 てらすで歌を披露



図 39 「風の丘」ハンドベル演奏



図 40 「風の丘」で菓子配り



図 41 てらすでお食事

利用して良い場所ができてうれしい。」との声が聞かれた。少し離れた場所にお住まいの方だったので、ちらしを広範囲に配る必要があること、道行く人から中の様子を見やすいファサードデザインなどの課題が明らかになった。

⑥ 第6回イベント

クリスマス会 — CoCoカフェ

地域の方と一緒にクリスマスを祝う会をカフェスタイルで行った。クリスマスツリーを飾るなどクリスマスの内外装と、手作りケーキとお茶、お昼の食事を提供した(図41)。さらに、ハンドベルによる演奏をテラス前のスペースや「風の丘」や「ディ愛甲原」でも行い、高齢者とのふれあいの時間を持つことができた(図37. 38. 39. 40)。てらすのカフェは準備したケーキや菓子は完売し、初めて準備費を売上により担うことができたが、定期的にカフェを行うかどうか、運営上のことも含めて課題も多く、今後検討していく予定である。

4. 今後のCoCo てらし隊の活動と課題

現在、平成25年度に活動を開始してから、まだ1年を経過していない活動初期の段階である。地域居住者によるNPO「一期一会」の皆さまのご指導のもと、学生が主体的に運営を行い、地域コミュニティの拠点や居場所化を目指して、今後もさまざまな活動を行っていく予定である。

当面の課題は、てらすの利用者の輪を広げること(多様な世代や職業の人の参加や利用)、イベントだけでなく日常的な自主的な運営にてらし隊が関わること、ロータリーおよびてらす出入口付近の明るく開放的なデザインへの改修など、さまざまある。また、てらし隊も大学卒業にともなう代替わりの中で、地域住民との関係や活動を継続させていく運営方法も課題である。

最終的な目標は、ひきこもりの高齢者とてらし隊やてらすがつながり、安心できる高齢期と街の活性化である。また、定期的に居住者への調査を実施することにより、てらし隊の活動が「日常生活で困ること」の減少など、生活の質の変化へ影響しているかを確認していく予定である。

注

- 1) 高齢者居住委員会『住みつなぎのススメ』朋文社(2012)
- 2) 大橋寿美子他：居住地域におけるもうひとつの居場所の形成 — 自宅開放事例にみる運営・使われ方実態調査から —, 湘北短期大学紀要 36(2013)
- 3) 加藤仁美他：高度経済成長期の計画的郊外戸建住宅地における高齢者居住の実態(その1) — 伊勢原市・厚木市愛甲原住宅の場合, 2012年度日本建築学会学術講演梗概集,

参考文献

- 1 Ray Olden Burg『The Great Good Place』DA CAPO PRESS(1989)
- 2 日本建築学会編『まちの居場所』東洋書店(2010)
- 3 高齢者居住委員会『住みつなぎのススメ』朋文社(2012)
- 4 大橋寿美子、加藤仁美：郊外戸建住宅地における居住者主体による高齢者の居場所づくり — サードプレイス形成に関する実践事例(伊勢原市愛甲原住宅), 2013年度日本建築学会学術講演梗概集
- 5 大塚智貴：郊外戸建住宅地における高齢者居住の変化と実態 — 伊勢原市高森台の場合, 2010年度 東海大学卒業論文
- 6 工藤綾佳：郊外戸建住宅地における高齢者居住と地域社会の実態 — 愛甲原住宅の場合, 2011年度 東海大学卒業論文

Formation of the alternative place for elderly in suburban residential area supported by local residents and university students

- From an attempt in the initial stage of the activity in the case of Aikohara -

Sumiko OHASHI Hitomi KATO

【abstract】

In an aging society with fewer children, we need social networks supported not only by one family but also the community as a whole. In this research I report mainly about the initial stage of these activities that make alternative place for the elderly in suburban residential area. Aikohara residence in Isehara city, the location I carried out this project, is one of the residential area for government service developed in the period of rapid growth in the postwar era in Japan. Local residents there have been supporting the lives of the elderly people independently, establishing day care facilities and multifunctional long-term care in a small group home. In 2013, the NPO “ichi-goichi-e” and the university students (Tokai and Shohoku University) started the project to build a comfortable place which is available for local residents and elderly adults. We are now gradually spreading the activity, holding six events in a year.

【key words】

The third place, A place of my own, Elderly adult, Suburban residential area